

中学生の部
最優秀賞

物づくりの動機

佐久穂町立佐久穂中学校

西部 董弥 とうや

朝日を浴びて光る黒い果実。茂来高原の宝石とよばれるそれを作っているのが僕の祖父だ。七月上旬、祖父の栽培したブルーベリーで作られたジャムが給食に出た。

ブルーベリーはブドウのように房で育つが、ブドウとは異なり、房の中で一粒ずつ違う速度で熟していく。そのためすべての木を回り一粒ずつ収穫しなければならぬ。一粒が一グラムとすれば、一キロ摘むのに千粒。選別して捨てる分を考えれば、どれだけ手を

動かさなくてはならないのか。父母も、この収穫時は手伝い、もちろん僕も兄弟も、できる作業をしてきた。だが、中学に入り部活中心の生活になると、手伝いに行けても午前中の部活が終わった後に少し関わられるくらいになった。

今年僕は中学三年。部活が終わり、受験勉強が本格化した。父と高校に入ってから、またその先どんなことをしたいか、よく話すようになった。父に、「将来ブルーベリーの経営を祖父に教えてもらいながらやってみる？」と聞かれた。「面白そうだね」と答えると「ちなみに仕事をどれぐらい知っているの？」と聞かれ、考えてみた。作業を七つしか思いつかない。それもいつ、なんのためにやっているのかは全然分からない。もし教えてもらうにしても『何も分かりません』からでは、祖父のやってきた事を侮っているように嫌だった。教えてもらう前に少しでもどんな作業をしているか知らない。そこで、今

年は、今まであまり行つたことのない収穫から手伝おうと決めた。

まず、祖母に朝の動きを聞く。祖母は「朝四時に起きて……まあ、歳だから起きちやうんだけどね」と話し始めた。作業場に新聞を広げてから、四時半に畑に行き摘み取りを始める。七時半頃家に戻り、ブルーベリーを新聞の上に広げる。乾かしている間に朝食をとり、八時頃から選別。「雨の日にと取るのもうちよつと乾くのに時間がかかるけどね」と祖母は笑つた。これを六月下旬からお盆の頃まで毎日繰り返しているのだ。改めて聞くと「さすがに一か月もやっていると疲れがたまるな」と言つていた七十四歳の祖父の姿を思い出し胸が痛んだ。七月の終わりには夏休みに入る。僕は、少しでも二人の作業を減らしたいと思つた。そして二人と同じスケジュールで働いてみようと思つた。

初日、三時四十五分に起きた。水分を持ち四時に家を出る。そして自転車で五キロ離れ

た大日向の畑へ出発した。まだ辺りは薄暗く、明けの明星や月が美しく輝く。東に向かい緩い坂道をのぼり続けて行くと、山際がだんだんと白くなつていくのがとてもはつきりに見える。枕草子の『やうやう白くなりゆく山ぎは』の一節が頭をよぎる。〈いとをかし〉その世界が色づいていく時間が美しいと思えた。昔も今も変わらない自然を美しいと思う人の心の動きに時間を超えて確かにそこにある物の不思議さと思つた。

畑に着くと、すでに摘み取りが始まつていた。「しまった。あと十五分早く家を出ないと間に合わないのか」と思いつつ、急いで合羽を着、腰に籠を付け、祖母と一緒に摘み取りを始める。朝露が葉や実に降りていてびしょびしょになる。籠いっぱい（三十分程）約二キロを摘むと、手の先がしわしわになつてくる。その冷たさに指先の感覚がなくなり、狙つた実を摘めない。畑に朝日が射し始めると、実が白く光り余計に取りにくくなる。熟

しているものを摘んだつもりでも、籠を見ると赤い実がかなりはいっている。祖母は「私もそんなものよ」と笑って励ましてくれたけれど、正直がっかりした。なぜなら熟していない実は酸っぱく見た目も良くないため、選別の時にジャムに回すことになるからだ。摘む事一つ取ってもとても気を遣い難い。

家に帰ると扇風機を回し、新聞の上の実を広げていく。祖父は腰を痛めているので、僕は張り切ってやった。露をとる間、三人で朝食をとり一息ついた。

ここから先は、今までよくやっている作業だから本領発揮！と張り切ったのに、摘み取りをした後だと集中力が欠け、最後まで選別ができなかった。時間までに荷作りを終え、車まで運んで仕事は一段落。祖父母はこの後、出荷や配達に行くのだが、僕は二人のたくさんのお礼に背を押されながら家に戻った。

二日目は起きられず、手伝いに行くことができなかった。一日でこれだけ疲れるのに、

祖父母はこれを毎日やり続けている。実際一緒にやる程に、祖父母のすごさが分かった。何が二人の原動力になっているのだろうか。『食べる人の笑顔が見られる』や『美味しいと言ってもらえる』等によく聞く言葉。しかしそれだけで、こんな大変な作業を十年間も続けられるものだろうか。この疑問の答えは、これから様々な作業を手伝っていく中で見つけていきたい。そしてそれは、僕の将来『なぜ働くのか』『何をしたのか』という課題への答えの糸口になるんじゃないかと思う。

(長野県南佐久郡佐久穂町)